

第190回 原医研セミナーのご案内

下記のとおりセミナーを開催致します。多数ご参集下さい。

記

日時：平成28年 11月18日（金）午後5時～

場所：霞総合研究棟 7階 701セミナー室

演題：血液細胞分化における Inner myeloid の調節と意義

講師：東北大学大学院医学系研究科 生物化学分野

五十嵐 和彦 先生

転写因子 Bach2 は、Bリンパ球における抗体遺伝子のクラススイッチや体細胞突然変異、Tリンパ球における調節性 T 細胞の誘導、そして B および Tリンパ球の初期分化で重要な役割を担い、その機能の一部は Bach1 と相補的である。いずれも補欠分子ヘムを直接結合し、不活性化されることが大きな特徴である。Bach2 および Bach1 の両遺伝子を欠損するダブルノックアウトマウスの解析から、これら因子は赤芽球への系列決定(コミットメント)を促進することを見いだした。前駆細胞様細胞株を用いた ChIP-seq 解析の結果から、これら因子はミエロイド系遺伝子を抑制することで赤芽球分化を進めると考えられた。Bach によるミエロイド系遺伝子抑制は、造血系細胞分化の基本メカニズムと考えられる。前駆細胞が有するミエロイド系分化能あるいはプログラムを inner myeloid と定義し、その血液細胞システムの多様性や進化における位置づけ、そしてヘムの調節分子としての役割を議論したい。

連絡先：広島大学原爆放射線医科学研究所
細胞修復制御研究分野（内線 5818）

広島大学霞地区運営支援部総務グループ
082-257-1611（内線 6532）